

13,3  
1  
45

91  
4



まことにゆのまつりもむすはば枝の空にまつり  
まことにゆのまつりもむすはば枝の空にまつり  
ん空際のじまへて世間のひくひく教の命を教  
しむる染めのまわらへとまことに急捕花のうそをす度  
え紅葉のまつり秋の夕暮は落葉とのまことにあがれと  
しひ花のまつりまつりあがれとまことにあがれと  
まつりまつりあがれとまことにあがれとまことにあがれ  
て淨刹と称すとまつりあがれとまつりあがれとまつり  
別離苦とまつりとまつりとまつりとまつりとまつり  
うくい生れ流落の波の浦とまつり四智旁明のわくお  
うくに身とほくまの行きみちらとのわく般若の  
まつりまつりよやじまつりまつりまづけてま

桂のまことに通じ得りんかんを承聽の尊客とし  
て集合みて松風よ葉障の簷垂ともへさん生  
を病死のあ朝の日午後とまん行也おふる定のさ  
うれどもあらこうあらわくもむすめにて居る  
やう嘗ての初音をきみつらうへん鳥鷹を譽め  
えびりもとく海によめつて胡蝶のくわくわく  
きのまゆひきりとん度量の極ひとひひやき澤乃  
雲のくわくわくひとくきのうとくちぢみくわく  
智也乃くわくひとくひとくのえりの風玉くわく  
きくめ未だ生の清音よ信のく暮然其辱乃づらまく  
また上品蓮華よもくわくセ寳くうんのまく本性の  
りくよみくわん極くえのありひよくわくくわくくわく

て清音の藤乃くわくとくわくわくくくの仙洞年  
の給仕みハヨクれとつて世もよ付重慶せうの成松ぬ  
通の周とすりとくちゑくわくよいめくこく一ね乃く  
ノシホトカウハく妙法の薬とくくせ始應初の罷と  
わうけく車も言はく聞えとくやくして空氣音樂乃  
模範とくうくくくくくれや体能のせよせれくく  
易はづくもとくくみくくりよハ松の御づくもくとく  
く通よ入ふくとせうとくくもくくは夕方のじせくく  
くくくくくやくくよ生はうきよくくわ法のた  
とくくくくて苦海よもくくもくくうのせとくくとく  
て世絶とくくよくん事もくくくくくうよの事とく  
らくらく音達のれきにせひとくらく失却なり

あかひとゆうつてハ帝の煙乃よもひに川  
のゆうとじよひてハ船の煙乃よもひに橋のことをす  
くもがのらとくも食つてのうひのうとすけ  
まきんすらの橋娘よつるゆうくわくうとくとくと  
うくみくあうりとくとくゆうすくられ小毛の野  
へのあそ雪とまえんたうの解脫のわけまたとじと  
く東洋のゆうとくとくのまくとくわくんわくとくに  
はせんやんのうあもやくとくとくとくとくとくと  
あゆうものうしとくのれくとくとくとくとくとくと  
くとくあれをうけうふ思おうりあうううれいわくと  
ひよと經手極手の文とくへとくのゆうとくのせうり  
朝みゆうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
人を安樂淨刹よじくとくとくとくとくとくとくとく

善逝林うくの極手絢縈のあやまつりとくとくとくと  
式部うた慈苦惠とくとくとくとくとくとくとくとくと  
慕むるゆうとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
人を安樂淨刹よじくとくとくとくとくとくとくとくとく



7133

1

45

8.3

5